

ひとくら
一庫ダム、最大流入時に約73%を貯留
多田院地点のはん濫危険水位超過を回避

いながわ ひとくら
淀川水系猪名川の一庫ダム（兵庫県川西市一庫）流域では、秋雨前線の影響により、9月6日23時から雨が降り始め、その後、7日22時から雨が強まり、8日2時からの1時間で58mm、7日22時からの6時間で133.7mm、8日22時までに総雨量174.4mm（ダム流域平均雨量）を記録しました。

今回の防災操作*により、一庫ダムでは最大流入時に流入量（毎秒543m³（管理開始以降第2位））の約73%となる毎秒394m³を貯留する操作を実施しました。

また、一庫ダムが無い場合と比べ、河川水位のピーク時において、ダム下流の多田院水位観測所（兵庫県川西市多田院）では最大約1.1m水位を低下させたことにより、はん濫危険水位未満に抑え、浸水被害を回避できたものと推定しています。

※防災操作：大雨により、ダムに流れ込む水の一部をダムに一時的に貯め込んで、ダムから下流に流す量を減らし、下流の河川水位を低減させる操作。

※今回の発表は速報値であり、今後の精査により数値等が変わることがあります。

平成30年9月12日

独立行政法人 水資源機構 一庫ダム管理所

発表記者クラブ

豊中記者クラブ
川西市政記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人水資源機構 一庫ダム管理所 所長代理 はやし 林
住所：兵庫県川西市一庫字唐松4-1
TEL：072-794-6671（代表）

ひとくら 秋雨前線に伴う出水と一庫ダムの防災操作について

いながわ
淀川水系猪名川の一庫ダム（兵庫県川西市一庫）流域では、秋雨前線の影響により、9月6日23時から雨が降り始め、その後7日22時から雨が強まり、8日2時からの1時間で58mm、7日22時からの6時間では133.7mm、8日22時までの総雨量は174.4mm（ダム流域平均雨量）を記録しました。特に1時間雨量としては管理開始以降第2位を記録する豪雨となりました。

この秋雨前線に伴う降雨により、8日1時45分には流入量が洪水量（毎秒150 m³）に達したため、防災操作を開始しました。

防災操作の概要

	流域平均総雨量	ダムへの流入量が最大となった時刻	同時刻におけるダムへの流入量	同時刻におけるダム放流量	同時刻におけるダムによる低減量
一庫ダム	174.4mm	9月8日3時42分	543 m ³ /s	149 m ³ /s	394 m ³ /s

今回の防災操作では、最大流入時（8日3時42分）に流入量（毎秒543 m³）の約73%となる毎秒394 m³を貯留する操作を実施しました。

この防災操作により、一庫ダムが無い場合と比べ、推定で河川水位のピーク時において、ダム下流の多田院水位観測所（兵庫県川西市多田院）では最大約1.1m水位を低下させたものと推定しています。

防災操作は、今月の台風21号による豪雨対応に次いで今年4回目です。

一庫ダムでは、今後もダム効果が最大限に発現できるよう努めて参ります。

※今回の発表は速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。

多田院地点の水位低減効果

多田院地点の河川水位が最高水位となった時刻	同時刻における多田院地点の河川水位	ダムが無かった場合の同地点の最高水位（推定）	水位低減効果（推定）
9月8日4時10分	6.88m	7.99m	1.11m

管理開始（昭和58年4月）以降の出水と今回の出水の記録

順位	出水名	流域平均雨量（mm）	最大流入量（m ³ /s）	最大流入時のダム流下量（m ³ /s）	最大流入時のダムによる低減量（m ³ /s）
1	平成30年7月 梅雨前線	550.9	630	149	481
2	平成30年9月 秋雨前線	174.4	543	149	394
3	平成25年9月 台風18号	293.4	468	148	320

※ 管理開始（昭和58年4月）以降の出水で、最大流入量が大い方から3番目までを記載しています。

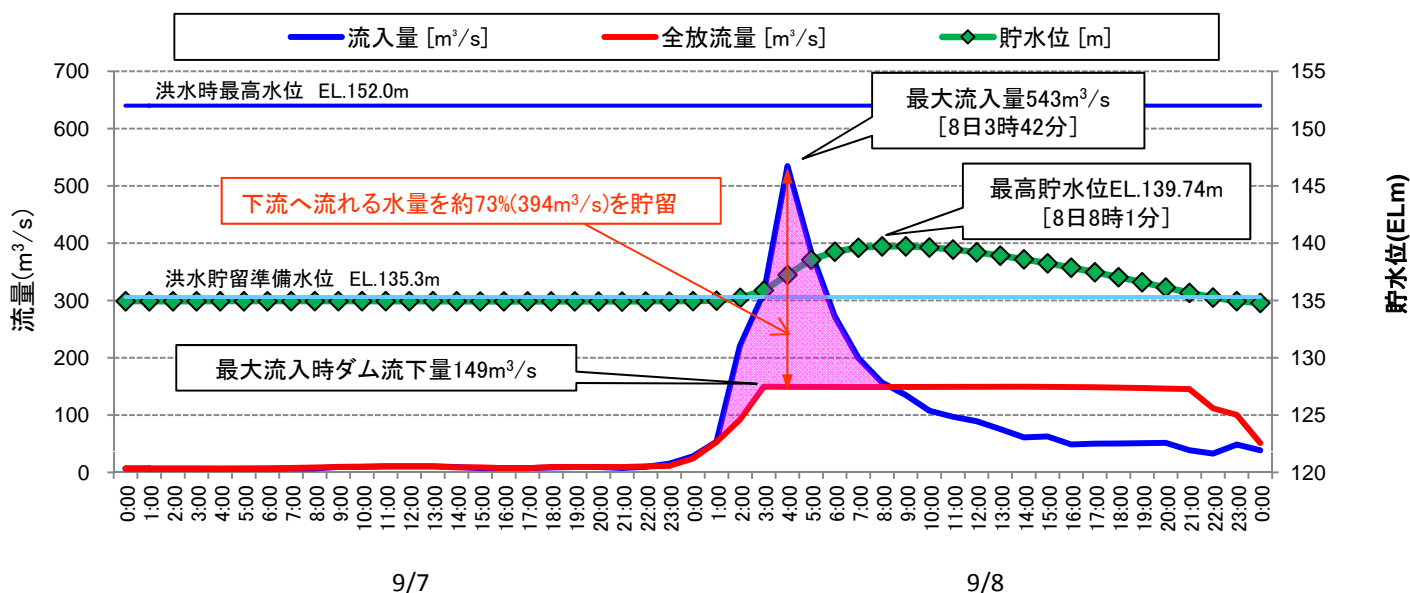
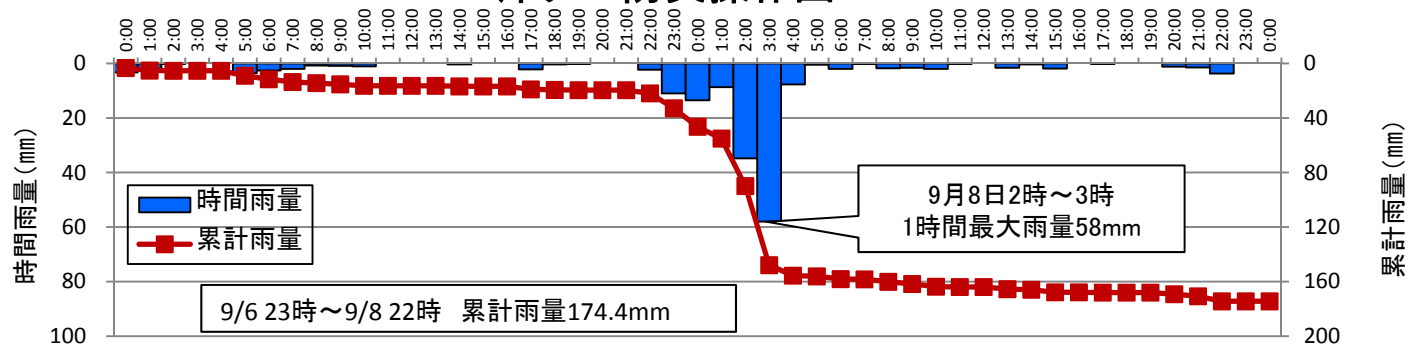
一庫ダム位置図



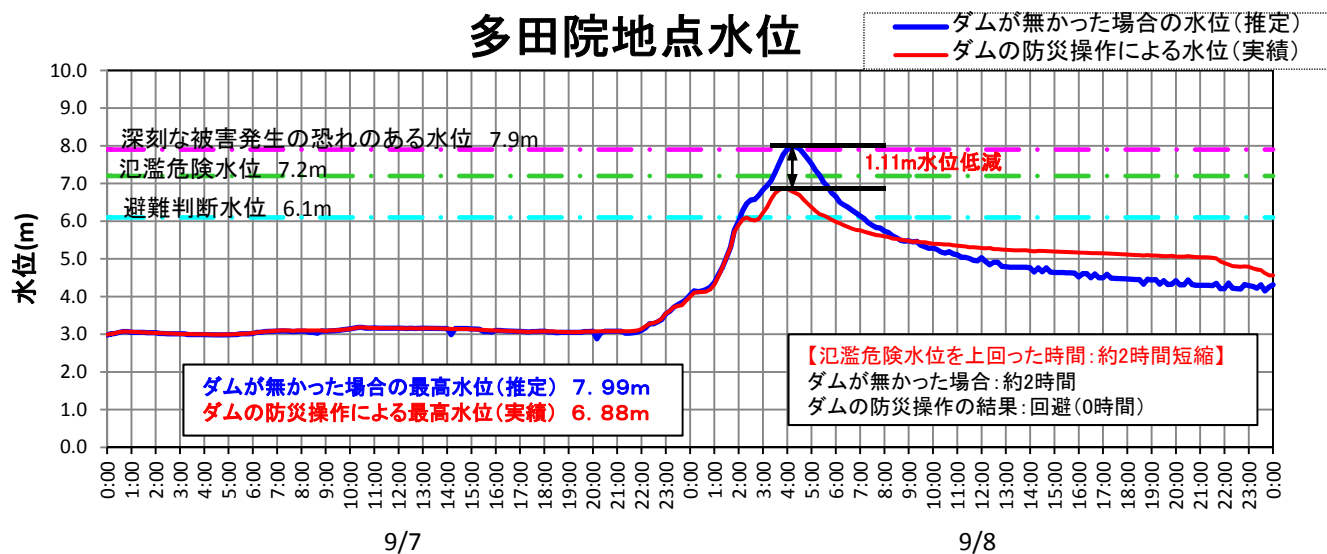
秋雨前線の降雨に対する一庫ダム防災操作について

・一庫ダム最大流入時に約73%を貯留し、ダム下流の河川水位を低減

一庫ダム防災操作図



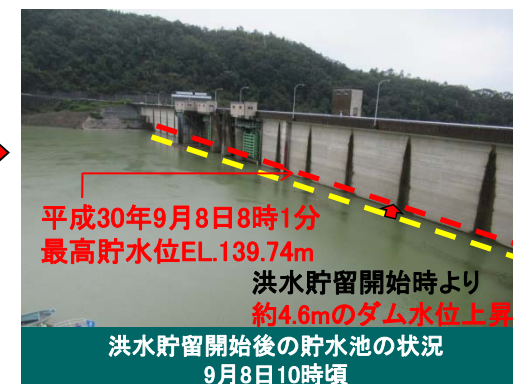
多田院地点水位



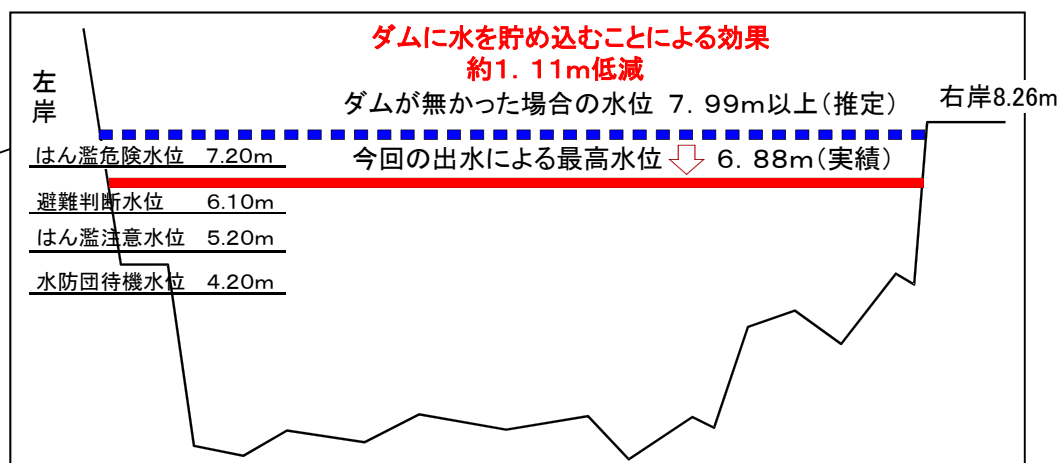
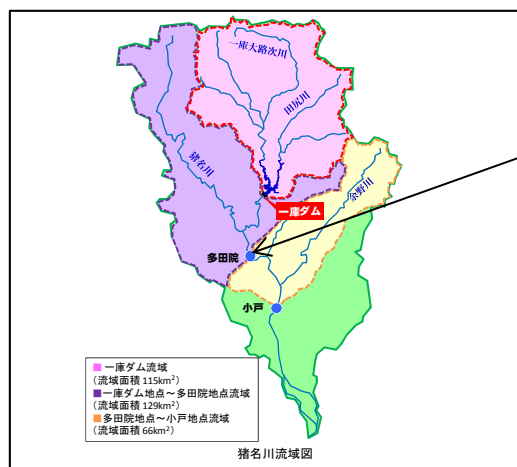
一庫ダム 秋雨前線に伴う出水に対し防災操作を実施

■ 淀川水系猪名川の一庫ダム流域では、秋雨前線の影響により、1時間雨量で最大58.0mm、降り始めからの総雨量は174.4mmを観測しました。この降雨により、ダムへの最大流入量は毎秒543m³(管理開始以降第2位)を記録しましたが、防災操作により、流入量の約73%(毎秒394m³)を低減させて放流することにより、ダム下流の河川水位の低減に努めました。

■ もし、ダムが無かった場合には、多田院地点の水位は7.99mに達したものと推定され、はん濫危険水位を上回ったものと想定されます。



多田院地点での水位低減効果



※ 今回の発表は速報値であり、今後の精査により数値等が変わることがあります。